

平成29年度第1回大和市国民健康保険運営協議会議事録

日時：平成29年7月27日（木）
18時30分～19時30分

場所：大和市役所 本庁5階
全員協議会室

出席者：吉澤弘会長、高久良美委員、目黒裕委員、菊地慶子委員、
高野恵雄委員、横田隆夫委員、近藤清志委員、金子哲也委員、
櫻井吉孝委員、保田弟治委員、平本美恵子委員（11人）

事務局：北島市民経済部長、常盤保険年金課長、
西條係長、堤係長、折笠係長、荒瀬主査、大矢主事、花輪主事

傍聴者：なし

事務局	<p>1 開会 開会宣言（出席委員が11名で会議成立）</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 役員選出 吉澤委員が会長に、目黒委員が会長職務代理に選出</p> <p>5 議題 （1）平成29年度大和市国民健康保険事業特別会計当初予算について（報告） （2）国民健康保険制度改正について （3）データヘルス計画について</p>
会長	<p>これより、議事に入ります。 事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>○平成29年度大和市国民健康保険事業特別会計予算について（報告） 資料1について説明</p>
	<p>質疑応答</p> <p>収納率が年々上がっているのは、何か取り組みを行っているのか。</p>
委員 事務局	<p>市税の収納とりまとめは収納課が行っており、督促状の送付では、目立つ色の封筒を使用するなど、工夫をしている。また、高額療養費の給付額を滞納分に支払っていただくなどの取り組みが収納率上昇の要因と考えられる。</p>

委員	全国平均や神奈川県としての収納率はどうか。
事務局	収納率については、平成28年度は19市中下から2番目。県平均より低いのが現状である。
事務局	神奈川県の分析として、「県央地域の収納率は低い傾向である」と聞いている。大和市が極端に低いわけではない。各収納率向上対策や景気回復を背景に市としては今後も収納率向上を目指す。
委員	神奈川県収納率1位は何パーセントか。 また、今まで配布されていた資料のように説明書きを加えてほしい。
事務局	全体の説明という観点からこのような資料としたが、より分かりやすくなるよう改善する。 また、収納率については、平成27年度では、1位（19市中）94.12%で鎌倉市となっている。
会長	決算の資料を提供する際など、他市との比較等が分かるものとしてもらえるとうい。
委員	歳入の繰入金が減った理由は何か。
事務局	主な理由として、国保の診療報酬等支払準備基金というものがあり、28年度については3億円、29年は1億8千万の取り崩しをしており、その差額である。
事務局	補足だが、基金とは貯金と考えていただき、国保事業運営にあたり、基金の一部取り崩しをしているという意味である。
委員	保険基盤安定繰入金などの詳細が資料にあるとうい。
事務局	次回以降検討する。
委員	現状、大和市の健康保険に係る財政は黒字か赤字か。
事務局	ほとんどの市町村がその他一般会計繰入金を繰り入れることにより黒字とし、これを繰り入れないと歳入歳出差引残高は赤字となる。
委員	27億円が補てん額となるのか。
事務局	その一部である。

委員	繰入金については、平成30年度以降大きく変わるのか。赤字を市の財政から補てんする仕組みでは、国保運営が県になった場合、市側の裁量が減り、国保税が上がるのではないか。
事務局	平成30年度の都道府県単位化は、財政運営の安定化が重きに置かれており、赤字繰り入れの解消・削減が目的となっている。しかし、急激な解消・削減を行うと被保険者の負担増につながってしまう。当初は、国・県から提示された標準税率に基づき、税率を変える懸念もあったが、現時点では、赤字繰り入れの解消・削減目標を定め、段階的に減らすよう国・県から示されている。被保険者の負担増につながらないよう市として検討する。
委員	負担増ということは、いずれ保険税増が想定されるか。
事務局	増の可能性もあるが、被保険者数が減っており、一人当たりの医療費が上がっても、全体の医療費が下がる可能性があり、必ずしも負担増につながるとは限らない。制度改正に伴う激変緩和対策もあり、税率改定については慎重に対応する。
委員	オプジーボなどによる医療費の見通しはどうか。
事務局	医療保険での新規認可により、平成27年度は、医療費については上昇傾向にあったが、平成28年度決算見込みについては、薬価改定や、投薬の効果等も影響し、医療費総額として減少がみられる。保険年金課としては、これからも薬価改定等の情報を収集しながら対応していきたい。
委員	製薬会社が日本と海外の場合があり、日本の製薬会社は、交渉の余地があるが、海外では、安くすると日本では使えなくなる。最先端の医療が日本では保険で受けられなくなってしまうことがあるようだ。
委員	ジェネリックへの移行割合は、年々高まっているか。
事務局	厚労省の平成27年度とりまとめでは、市での利用率は約61%。県下トップの利用率である。
事務局	○国民健康保険制度改正について 資料2について説明
	質疑応答
委員	県がとりまとめるということは、無駄が省けるということか。県から交付金がもらえるということか。

事務局	今回の都道府県単位化の目的の一つは、事務の平準化・効率化である。例えば、県内市町村の異動による高額療養費の多数回該当数引継ぎ等の制度改定もあり、被保険者の経済的負担が減ると考えられる。
事務局	都道府県単位化に伴う財政運営の安定化も目的の一つである。今までは一般会計からの赤字繰り入れを行う等が大きな課題であった。突発的な医療費の増加や、景気不安定による収納率の低下等、市町村が予算編成に苦しむこともあったが、これからは県がお金を管理することにより、財政の安定化が図られるというのが国の考え方である。
委員	団塊の世代が75歳以上になると、大和市の人口構成はどうか。
事務局	詳細なデータは把握していないが、医療費については、国保の平均は30万円/1人であり、後期高齢者医療制度となると80万円/1人である。運営形態を改善しなければならない。これを見込んだ都道府県単位化であり、本市の人口試算が出たら示したい。
委員	保険税の決定や管理については、どのように決めるか。
事務局	改定の場合、この協議会にて数回の諮問を行う予定である。国からこの秋口に仮算定での試算があり、提示があった時点で詳細を決めていく。現在のところ、大幅な改定は想定していないが、会議の際はご意見をいただきたい。
会長	被保険者への負担が無いように、市で検討しているようなので、秋に分かりやすい資料での提示をお願いします。
事務局	○データヘルス計画について 資料3について説明
	質疑応答
委員	特定健診とはどう違うか。
事務局	特定健診については、受診率向上を目的にしているところだが、データヘルス計画については、レセプト等のデータから、大和市の医療費等の現状と課題を分析するものである。例えば、平成27年度の特定健診法定報告値では、受診率は34.8%で、県下5番目(19市中)である。この受診率を年齢別に分析すると、全国的にも若年層、特に男性の受診率が低いことが分かってくる。今までは大和市でも65歳以上への受診勧奨は実施していたが、今後は、医療に関心の少ない若年層に対しても、大病への備えを促すために受診勧奨を行うなど、データ分析をもとに現

	<p>状を把握し、課題を整理し、保健事業を展開していくのがデータヘルス計画である。</p>
委員	<p>企業に勤めている場合が多いと思うが、会社の健康診断とのデータの絡みはどうか。</p>
事務局	<p>このデータヘルス計画については、大和市国保にかかるデータである。自営業や一時的に離職している方も含めて、働き世代の被保険者の健康に留意していただくために、若年層をターゲットとすることが重要だと認識している。</p>
委員	<p>マイナンバー制度と関係はあるか。</p>
事務局	<p>直接関わりはない。個人情報扱う観点からするとデリケートな問題ではあるが、データ分析については、個人を特定するのではなく、統計的なデータを用いつつ、大和市の傾向と対策を分析するようになる。現在は、国保のデータに限られるが、今後は社保等との連動や保険者間でのデータ交換等、マイナンバーが制度の話につながる可能性がある。</p>
事務局	<p>国では、番号法制度において、今後医療にかかるビッグデータを活用し、医療費の適正化を図るとしているが、現在、データの利用は法律で制限されている。</p>
委員	<p>平成30年度から都道府県単位化し、県内の病院で特定健診を受診できるようにになれば、受診率も上がると思うが。</p>
事務局	<p>平成30年度以降も、これまでと同様に、基本的には特定健診については市町村ごとに行う。制度改正により、今後仕組みが変わるかもしれない。</p>
委員	<p>市の検診について、例えば大腸がん検診でいうと検便と内視鏡検査等があると思うが、検査方法が複数ある場合、患者の立場から言うと、忙しいなか受診するものなので、1回の検査で結果が出るような検査項目や、患者が検査方法を選択できるような仕組みにしてもらえるとありがたい。その方が受診率向上にもつながると思う。</p>
事務局	<p>特定健診については、メタボリックシンドロームに特化したものである。しかし、国民健康保険加入者については、人間ドック補助事業というものがあるので、ぜひご活用していただき、疾病の早期発見につなげていただきたい。受診率の課題としては、健康に無関心な方が多いことであり、ご提案も含めて今後検討できればと思う。</p>

会長	<p>大和市では、検査項目も増やしているのと、人間ドック補助事業もあるので、活用のために周知していただきたい。</p> <p>他になければ、これで平成29年度第1回大和市国民健康保険運営協議会を閉会する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----	---